

令和6年度 第2回 大船渡市地域医療懇話会 会議録

1 日 時

令和7年2月5日（水） 午後6時30分～午後8時00分

2 場 所

おおふなぼーと（大船渡市防災観光交流センター） 多目的室1・2

3 出席者

○ 委員 11名（欠席3名）

鵜浦哲朗委員、及川理委員、中野達也委員、高橋美保委員、柴田繁啓委員（代理 赤岩正昭氏）、新沼晃委員、菊池一夫委員、千田富士夫委員、石橋厚子委員、菅原圭一委員、佐藤高廣委員

○ 市長

○ 事務局 9名

安居清隆市民生活部長、佐々木直央国保医療課長、佐々木卓也長寿社会課長、藤田一枝健康推進課長、大和田達也企業立地港湾課長、今野宏同課長補佐、新田進国保医療課係長、中嶋聖志同係長、成井悠祐同主事、

4 懇話会の概要

【1 開会】

国保医療課長の進行により開会。

【2 市長あいさつ】

あいさつ要旨は、次のとおり。

- ・地域医療の在り方や将来的な方向性など、広く議論を深める場として、令和6年10月に「地域医療懇話会」を設置した。
- ・本日は、前回の会議で意見が多かった「通院に係る移動手段」と、「オンライン診療」をテーマとした。
- ・地域医療をより良いものにしていくため、活発な御意見、御提言をお願いしたい。

【3 会長あいさつ】

あいさつ要旨は、次のとおり。

- ・第1回では、当市の医療の現状について説明があり、その後、委員の自己紹介を兼ねた意見交換が実施された。印象的な意見として、以下の点が挙げられる。

「効率化」のワード。持続可能性を考えた時に重要な要素で、今後、国保診療所の在り方を考えるときの参考となり得る重要な視点である。

元気な高齢者の活用、既存の資源を有効活用する取組。大切な指摘と思った。

入院の地域完結率が低いことに注目した発言があった。回復期から在宅に至るまでに各職種の連携が大切なこと、ベッド数・マンパワー・老健施設等は充足しているか、在宅医療を担う人材の確保はできているかなど、持続可能な医療提供体制の確保の観点から、地域の行政が中心になって掘り下げるべき課題ではない

かと考えた。

- ・前回の会議では医療へのアクセスに対する改善策が求められ、資料が準備されたが、医療関係者が集まっており、具体性のある会議としたい。

(以降は、会長が議長となって進行。)

【4 議題】

(1) 通院に係る移動手段について～大船渡市による交通サービスの現状～

資料により事務局から説明。説明に対する質疑や意見等は、次のとおり。

(委 員) 提示された公共交通の利用内訳について、通学、通勤、買い物、通院などあると思うが、通院の割合を押さえているのか。

(事務局) 通院の割合は把握していない。

(委 員) 現行のタクシーチケット制度では、75 歳以上で運転免許証を持っておらず最寄りのバス停まで 300 メートル以上の距離がある人が対象となっているが、実際にはバス停が近くても利用が困難な高齢者が多い。要件の緩和や、配布枚数の増加の要望があるようだが具体的に教えてほしい。

(事務局) 1,000 円未満の利用だと使えないため、近距離でも使用できるようにしてほしいといった要望がある。

(委 員) 要件を緩和すると利用者や事業費が増え、市の財政負担も増えるところがあるが、人口の多くを占める高齢者にも手厚い施策をお願いしたい。

(市 長) 長寿のお祝いに伺った際に、日常生活は問題ないものの、通院時は家族の送迎ということもあった。福祉など様々な面で支えられるような形を目指したい。

(委 員) 現行のタクシーチケットは、1,000 円ごとに 500 円の補助が適用されるということだが、5,000 円の利用でも 500 円の補助ということなのか。

(事務局) 1,000 円ごとに 500 円分のチケットが利用できる。例えば、料金が 2,500 円となったとしたら 2 枚使用可能で、およそ半額を補助するという考え方になる。

(委 員) 介護保険の要介護・要支援の認定を受けている方であれば、ケアマネジャーが訪問しているので、相談を受け、必要なサービスにつなげることができる。委託されている在宅介護支援センターでもサービスを案内することが可能。

耳が聞こえにくい方の支援などは、社会福祉協議会で要支援マップを作製したりして把握に努めており、公共交通も、生活・医療などを含めながら全体的に考えなければならない。

ケアマネジャーや住民の意見など難しい部分があると思うが、これらを考慮しながら次期地域公共交通計画も考えていただきたい。

(委 員) デマンド交通の延べ人数は記載されているが、実人数は押さえているか。

(事務局) 日頃市地区は約 30 人、越喜来地区は約 10 人、末崎地区は約 30 人が利用している。

(委 員) 三陸町では一般も無料で利用できる患者輸送車を運行しているが、具体的にはどのように運行しているのか。

(事務局) 綾里、越喜来、吉浜の医科診療所と、綾里の歯科診療所の4つの国保診療所を市が設置している。国保診療所は、民間の医療機関が進出しにくい、へき地的な地域に設置しており、通院手段を確保するため、患者輸送車を無料で、最寄りの停留所から診療所まで、診療日の午前中を中心に運行している。

また、地域公共交通の空白地帯をカバーするということで、車両に乗るスペースもあるため、実証実験という形で患者以外の一般の方も利用可能である。

(委 員) デマンド交通の実人数とは何を指しているのか。

(事務局) 実際にデマンド交通を利用している人数である。

(委 員) 前回の会議を受けて、患者の医療へのアクセスを改善するためには、どうしたらいいかという観点から、公共交通の問題ではなく、患者のアクセスを助けるにはどうしたらいいかという視点で考えた場合、どの程度の市民が通院に困っているのかを国保医療課として、何かデータを持っているか。

(事務局) 現時点では、データは持ち合わせていない。今回の地域医療懇話会を機に、こうしたデータの収集が必要だと感じている。市だけでは把握しきれない部分が多いため、委員の意見を参考にしながら、足りない部分を整理したい。

(事務局) 近年、高齢者の免許返納が進んでおり、移動手段の確保がより重要になっているが、通院状況や交通手段は、個々の家庭環境や事情によって異なるため、現状では十分な分析ができていない。

全てのニーズに応えるのは財政的に難しく、何が有効であるかを見極める必要がある。実態を把握し、優先順位をつけて対応策を検討したい。

(委 員) まず「どの程度の市民が通院に困っているのか」を明確にしないと、具体的な対策を講じることができない。

診療しながら患者さんに言われたのが、医療費に加えて交通費の負担も大きいということであった。

過去にタクシー会社と提携し、患者バスという形で複数の患者が相乗りして通院の支援をしたことがある。実際の患者の声を聞いて行ったが、市としてもニーズを探るための方策を考えていただきたい。

(委 員) 参考として、赤崎地区で昨年末に実施した住民アンケートの結果を紹介する。

高齢者の移動について、70代の一人暮らしの方は67%、80代以上では43%が自分で運転している。次にタクシー、自転車の順となっているが、大船渡は車社会であり、免許返納は、容易ではない現状となっている。

一人暮らしの方が運転できず通院する場合、交通手段の確保は難しい問題であると感じている。

(2) オンライン診療について

資料により事務局から説明。説明に対する質疑や意見等は、次のとおり。

(委 員) 交通不便な地域ではオンライン診療が有効と考えるが、市で行う場合、公立の医療機関で行うのか、それとも市内のクリニックに協力を求めるなど考えているのか。

(事務局) オンライン診療は有効な手段の一つだが、具体的な話はこれからとなる。奥州市や北上市でモバイルクリニックを行っているが、市が車両を用意し、公立の医療機関のほか、共同で民間の医療機関も参加している。市で実際に行う際は、国保診療所だけではなく、市内全域でどのようにできるか、高齢者のデジタル機器利用の難しさなどを考慮しながら、皆様のご意見を伺いながら考えたい。

(委 員) 患者の医療情報の共有も重要であり、例えば未来かなえネットを活用すれば処方されている薬などを共有することもできるので、適していると考える。

大船渡市の加入率は18.1%、住田町49.9%、陸前高田市21.5%となっているが、60歳以上となると平均で71.7%加入している。高齢になると複数の診療科を受診していることが多く、患者情報を共有できれば安心して医療を受けられる。

北上市では車内にモニターを設置し、オンライン診療を行っており、地域医療ネットワークを活用しているようだ。

八幡平市でもオンライン診療を実施しているが、カルテの共有を必要とするため、通院患者のみ対象としており、複数を受診している人に対応するためには、情報共有をしたほうがいいと思う。

(委 員) 人口減少により医療従事者の不足が見込まれる中、デジタル化の流れにより、今後オンライン診療が当たり前になる可能性が高い。

ただし、大船渡市が率先して導入し、モデル地区となる必要はなく、まずは大船渡の実情を勘案しながら、見極めるべきではないか。

(委 員) オンライン診療は、将来的に当たり前のように行われると考えられる。

住田地域診療センターでは、数は少ないが施設職員が機器の準備をして入所者とオンライン診療を行っている。特別な通信システムを利用しているところもあるが、LINEなど汎用のシステムを利用すれば、通信環境さえあれば割と簡単に実施でき、未来かなえネットのようなシステムで情報共有できればいいとは思っている。

ただし、説明にもあったとおり検査等で毎回オンライン診療というわけにはいかないため、対面とオンラインを並行すると効果的だが、医師の協力が不可欠。

北上市の場合、うまくいっている部分もあるが、必ずしもそうでない部分もあると聞いているが、注目されている事業でもあり、医師会は頑張っている。

(委 員) 今回の県立病院の経営計画では、大船渡病院は機能強化型の基幹病院に位置付けられ、高度専門医療を強化する形になっている。

特に周産期医療に関しては、医師が大船渡病院に集約され、恵まれた

環境となっている。

この強みを生かし、妊婦・乳幼児にやさしい、子育てをしやすいまちといったようなことを全面的に打ち出すような施策を強力に推し進めていただいて、市民の流入を促すような政策をできないかと思ったりしていた。

(委 員) 特に産婦人科に関して、市で行っている産後ケア事業を、来年度から大船渡病院でも実施することを計画している。

(市 長) 子育てに関して、大船渡病院が基幹病院として整備するということで感謝している。

その中でも周産期医療は、周辺では大船渡病院のみであり、ここを活かして、市と病院が強力に連携し、できることを取り組んでまいりたい。

このほか、大船渡病院では救急センターの医師を中心に、ドクターカーを導入していただいた。大船渡、住田に加えて、消防の協力をいただきながら陸前高田と対象地域が拡大された。

実際に救命につながったケースも聞いており、大船渡病院の先行事例としての取組に感謝申し上げる。三陸沿岸道路を利用して、さらに対象範囲を拡大する意欲もあるようなので、市としてもサポートしたいと考えている。

(進行が事務局に移る。)

【5 その他】

市長が、所感を述べた。

- ・公共交通がテーマだったが、会長からのご指摘のとおり、通院に係る視点をもう少し強調できるよう、様々なデータを集める必要性を感じた。場合によっては、アンケート等、関係者の方々にご協力をいただくことが必要と思っている。
- ・実際に行われていた事例など情報をいただきながら、より患者・市民に寄り添った移動手段の確保に努めていきたいので、今後とも様々なご指導等、よろしくお願いしたい。

事務局から、本日の意見をまとめて委員に報告すること、次回の懇話会は来年度を予定していること、本日の議論を踏まえてもう少し掘り下げ関連する内容などを取り上げたい旨を委員に伝え、閉会とした。